

結論持ち越し

ITER建設地で閣僚級会合

日仏ともに譲らず



日本代表のため用意された部屋で閣僚級会合の結果を待つ蝦名武副知事(中)ら本県の一行は現地時間20日午前9時15分

【米バージニア州レストンで本社・河田喜照】国際熱核融合実験炉(ITER)計画への参加六カ国・地域は米東部時間の二十日朝(日本時間同日夜)、米ワシントン郊外のバージニア州レストンで閣僚級会合を開いた。日本の候補地・六ヶ所村と欧州連合(EU)候補地のフランス・カダラツシュのどちらを建設地とするか協議したが結論が出ず日本時間21日午前3時前、決定を先送りした。再協議は2月の見通し。会合には各国・地域の閣僚級の代表が参加した。日本からは政府を代表して細田博之内閣官房副長官らが協議に臨んだほか、本県から蝦名武副知事、上野正蔵県議会議長、古川健治六ヶ所村長らが会場となったホテルに詰め掛けた。会合は、参加六カ国・地域の合意による建設地決定を目指して協議を行ったが、日本、EUとも譲らず調整が付かなかったとみられる。今月四、五の両日にウィーンで開いた次官級会合では、ITER立地国は建設関連費の約半分を負担することと合意した。この結果、誘致争いは事実上、日本とEUの一騎打ちとなっていた。国や県は当初、地理的条件などで六ヶ所村が優位とみていたが、EUも誘致を譲らず調整は難航。双方はそれぞれ、会合直前まで各国と事務レベルで非公式の協議を重ねていた。